


ふりがな 氏名	はせがわ たくみ <b>長谷川 拓海</b>	都道府県	大分県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Wake Up Japan / Oita 共同代表</li> <li>• 立命館アジア太平洋大学国際経営学部</li> </ul>			
私のESD活動	<b>県内の様々なジャンルを混ぜ合わせて、若者への都市部と変わらない機会の提供を模索しています</b>			

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

私はユネスコスクールである京都外大西高等学校出身であり、2014年11月5日から8日にかけて岡山で行われたユネスコスクール世界大会に関西地区代表メンバーとして出席しました。そこでは日本各地、世界各地からの参加者の刺激的な考え方や行動を知り、今でも活動するようになりました。京都外大西高等学校内ではユネスコクラブという部活が作られ、そこでは主に環境教育を学内で行っていました。一つの取り組みとして文化祭(学園祭)でのリユース食器導入を行いました。この取り組みは関西の高等学校内で生徒主体での取り組みは初めてでした。ユネスコクラブが主体となり、生徒会と教員はもちろん、京都市右京区役所のエコステーションのアドバイスの元、区役所から助成金も頂き、約一年間の企画の後、実行しました。結果としては昨年より、燃えるゴミ4分の1ほど、缶とペットボトルは2分の1ほどに減りました。リユース食器を文化祭で導入することで一番得た効果は生徒の無意識下での行動の変化です。文化祭が行われた一日間、分別に気を使わなければならないので少しではあるが癖になった人もいました。あくまでも私の観察ですが、翌日からゴミ箱ごとにゴミがしっかり分かれるようになりました。この企画は後輩に受け継がれ、今年の文化祭でもするようです。

Wake Up Oitaとしては今春に立ち上げたばかりで活動実績はほとんどありません。一つの事業として交流会を開いています。大学内で様々な出身や学部、サークル、学年の人を集めて参加者にとって身近なトピック(自分の夢やボランティアなど)について話すことにより参加者の想いを共有し、活動に移しやすい環境を作っています。

○「京都外大西高等学校ユネスコスクールページ「KGN UNESCO JOURNAL」 <https://kgnunesco.wordpress.com/>

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体(地域や日本国内、国際)の発展にどのように貢献したいと思いますか？**

私は大分県を初めとする九州で活動を広げていきたいです。大分県は「うつくし作戦『ESD 事業』」を進めています。この事業の一環としてユネスコスクール認定高等学校を平成27年度より毎年3校ずつ増やしていこうとしています。しかし実際はあまり進められていないという現状があります。そこで、諸 NPO に協力していただきながら大分県教育庁や環境庁に企画を持ち込み、出前授業として50分間のなかでグローバル人材育成のワークショップを行おうとしています。自分の知らない世界で起きている問題や出来事を知ってもらい、考えてもらいます。そして生徒らの心に「何かそのために行動したい」というモヤモヤしたものを植え付けたいです。そのワークショップのアフターケアとしてボランティアを紹介することで彼らのモヤモヤを明確なものにしていきたいです。ボランティアを紹介するために地元 NPO と協力していきたいです。

私は関西地方のユネスコスクールとのコネクションがあるので、関西から大分/九州へ ESD のモデルを輸入したいとも考えています。例えば私の母校で行ったリユース食器を大分県内の高校でも導入したり、大阪の高校で行われている途上国でのボランティアなどです。

以上を行うことで、大分県民もしくは九州地方全体に ESD の存在を認識してもらい、少しでも多くの日本、そして世界を変えるグローバル人材を生み出していきたいです。